

1-2-8 県指定・加藤歩簫墓

〈県指定〉昭和31年2月24日

〈所有者〉加藤家

〈所在地〉天性寺町字西ヶ洞 法華寺裏墓地

〈時代〉江戸時代（19世紀）

〈員数〉11 m²

墓（1カ所）標石高さ59 cm、幅25 cm角

加藤家の墓地は、法華寺山頂上にある。上下2段に区画し、上段に17基の墓石を3列に配置してあるが、歩簫の墓は第1列の中央に位置し、「清境院幽山白翁居士」と刻まれている。

歩簫は名を貴雄、通称を小三郎という。蘭亭歩簫、白翁（晩年）と号した。俳諧を泊庵蝶夢に、国学を伴蒿蹊ばんこうけいに学び、安永元年（1772）家督を相続し、父の私塾を継承した。

二之町組頭を40余年間勤める一方、雲橋社を創立し、図書1,000余巻を一般に公開するなど文教の振興に力を尽くした。晩年吉城郡西茂住に凡兆の遺詠地を探り、大きな自然石にその句を刻ませた。文政10年（1827）12月14日没、享年85。

「紙魚のやとり」（しみのやどり）等多数の著書があり、大正15年100年祭を記念して「蘭亭遺稿」2巻が刊行された。

参考文献

『高山の文化財』178～179頁 高山市教育委員会発行 平成6年3月31日